

A3 / A3 PRO

免責事項および安全に関するガイドライン

V1.0 2016.10



目次

安全についての概要	3
注意	5
用語集	5
フライト前チェックリスト	5
免責事項および警告	6
使用を開始する前に	8
各部部品	8
純正部品と機能部品について	8
フライトコントローラ	8
GPS-Compass Pro	9
電源管理ユニット (PMU)	9
トリプルモジュラ冗長システム (A3 Pro 用)	10
ファームウェア	10
アプリ (DJI Lightbridge 2 が必要)	10
本製品の手入れ	11
保管と輸送	11
メンテナンスと保管	11
フライトの必須条件	12
気象条件と周辺環境	12
フライトコントロールシステムの責任を持った使用	12
フライトモード、機能と警告	13
フライトモード	13
フェイルセーフとリターントゥホーム	13
低バッテリー警告	14
規制順守と飛行不可ゾーン	14
規制	14
飛行不可ゾーン	15

安全についての概要

1. 環境に関する考慮事項

- 必ず建物などの障害物がない区域で飛行させてください。
- 大勢の人が集まっている場所の上空やその付近を飛行させないでください。
- 航行可能限界高度は、エアリアルプラットフォームのパフォーマンスによって決定されます。高度の高い場所ではバッテリーや推進システムのパフォーマンスも落ちるため、特に注意して飛行させる必要があります。
- 直射日光を避け、-10～45°C (14～113°F) の気温で飛行させることをお勧めします。



A3 や A3 Pro は玩具ではありません。また、18 歳未満を対象としていません。

「安全についての概要」では、安全に関するヒントを簡単に紹介しているにすぎません。本書のセクションにすべて目を通し、理解してください。

2. フライト前チェックリスト

- リモートコントローラと機体のバッテリーが完全に充電されていることを確認します。
- プロペラの状態が良好で、しっかりと留め付けられているか確認します。
- モーターの動きを妨げるものがないか確認します。
- コンパスの較正を必ず実施してください（新しい飛行場所で飛行させるときは毎回、およびアプリでそのように促された場合（DJI™ Lightbridge 2 システム））。

3. 操作

- 回転中のプロペラやモーターから離れてください。
- 常に、視野内に機体を捉えておいてください。
- 機体が空中にある間は、コンビネーションスティックコマンドを実行しないでください。
- フライト中は電話の着信に応答しないでください。
- 飲酒または服薬時には、飛行させないでください。
- リターントゥホーム手順を実行中、機体の高度を制御して障害物を避けることができます。
- 低バッテリー警告が表示された場合には、できるだけ早く安全な場所に着陸させてください。
- モーターの回転中は、絶対にリモートコントローラから手を離さないようにしてください。
- 着陸後は、必ずリモートコントローラよりも先に機体の電源をオフにしてください。

4. メンテナンスと保管

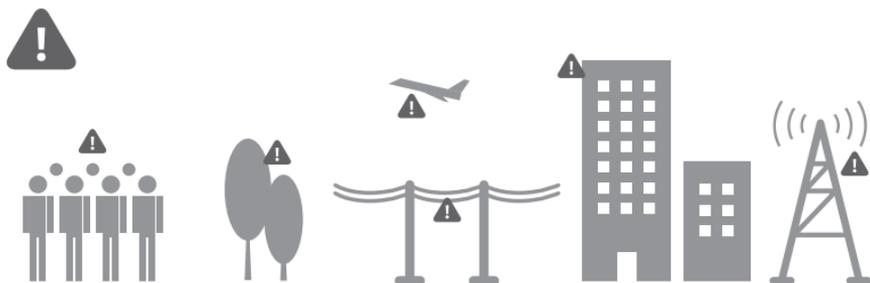
- 損傷したり破損したり古くなったりしたモジュールを使用しないでください。
- 推奨保管温度：5～35°C (41～95°F)
- 推奨保管条件：熱源、振動、強力な電磁場から離れた場所。

5. 現地法および規制

- 飛行不可ゾーンでは飛行させないでください。飛行不可ゾーンの一覧は、以下のサイトでご覧いただけます。<http://www.dji.com/flysafe>
- DJI が指定する飛行不可ゾーンは、現地当局の規制やその場での適切な判断に優先するものではありません。
- 救助チームが航空機を使って活動中の空域では、飛行を避けてください。



JP

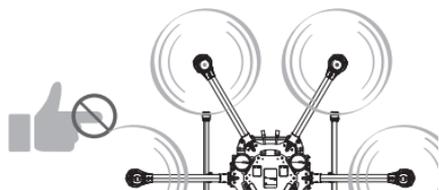


障害物、人混み、高電圧線、樹木、水域の近くで飛行させないでください。

電線や基地局などの強い電磁波域の周辺では、機内搭載のコンパス性能が劣化することがあるため、飛行させないでください。



雨、雪、霧、強風などの悪天候時に機体を使用しないでください。



回転中のプロペラやモーターから離れてください。



飛行不可ゾーン

詳細については、以下をご覧ください。

<http://www.dji.com/flysafe/no-fly>

注意

手順書および付属書はすべて、SZ DJI TECHNOLOGY CO., LTD 独自の裁量で変更されることがあります。最新の製品情報については、<http://www.dji.com> をご覧ください。

用語集

本製品の関連資料では、以下の用語で製品操作時に起こりうる危険のレベルを示しています。

- 注記** 注記：手順を正しく実行しないと、物的な損害が発生する可能性があります。負傷の可能性は全くないか、あってもごく軽微です。
- 注意** 注意：手順を正しく実行しないと、物的な損害が発生するとともに、重傷を負うおそれがあります。
- 警告** 警告：手順を正しく実行しないと、物的な損害、および巻き添え事故、人的な重大事故の可能性が発生するほか、高い確率で軽傷を負います。



警告

本製品の操作前に、ユーザーマニュアル全文をよく読んで、機能に習熟してください。本製品を安全かつ責任をもって操作しないと、傷害や本製品またはその他の財産の損害を招くおそれがあります。本製品は、大人の監督下でない子供の使用を想定していません。

本製品は高度な機能を備えています。慎重かつ良識をもった操作とともに、基本的な機械知識が求められます。互換性のないコンポーネントを使用しないでください。また、SZ DJI TECHNOLOGY CO., LTD が提供する資料に記載されている以外の方法で本製品を改造しないでください。本安全ガイドラインには、安全、操作、メンテナンスの手順を記載しています。本製品を正しく操作し、損害や重傷を避けるためには、組み立て、設定、使用を開始する前に、本ユーザーマニュアルに記載する手順と警告をすべて読み、これに従うことが重要です。

推奨年齢：18 歳未満は対象外。これは玩具ではありません。

フライト前チェックリスト

1. DJI 純正部品のみを使用しており、すべての部品が良好な状態であることを確認します。
2. リモートコントローラ、機体用バッテリー、(アプリ用) モバイル機器が十分に充電されていることを確認します。
3. プロペラがモーターにしっかりと取り付けられており、モーターが正常に始動して機能することを確認します。
4. A3 Pro 用の冗長システムモジュールが正常に機能していることを確認します。必要に応じて、IMU を校正します。
5. フライトコントロールシステムと機体に最新のファームウェアがインストールされていることを確認します。
6. 飛行する地域が飛行不可ゾーンから離れていること、およびフライト条件が飛行に好適であることを確認します。
7. 飲酒時、服薬時など、認知能力が損なわれる可能性のある状態では、飛行させてはいけません。
8. 選択したフライトモードに習熟し、すべての安全機能と警告を理解していることを確認します。
9. 現地規制をすべて順守しており、認可を適切に取得し、起こり得るリスクを理解していることを確認します。確認事項：フライト規制の順守は、ユーザーの責任となります。

10. DJI Zenmuse Z15 を使用する場合は、ジンバルが自由に回転できることを確認します。
11. DJI Lightbridge 2 を使用する場合は、アプリと機体に最新のファームウェアがインストールされていることを確認します。
12. DJI SDK を使用する場合は、DJI 公式 Web サイトに記載されている使用規制に従ってください。

免責事項および警告

本製品は玩具ではありません。また、18 歳未満を対象としていません。A3 や A3 Pro は子供の手の届かない場所に保管してください。また、子供がいるところで機体を操作する場合には、十分に注意してください。

本製品は、以下のように正常に操作できる状態であれば、簡単に飛行させることができるフライトコントロールシステムです。最新の取扱説明書と注意事項については、<http://www.dji.com> をご覧ください。安全なフライトと法令順守に関する詳細については、<http://knowbeforeyoufly.org/> をご覧ください。

JP

本書では、ユーザーの安全と法的権利と責任に関する情報を取り扱っています。ご使用前に、本書の全文を注意深くお読みになり、正しい設定をご確認ください。本書の手順と警告を正しく理解して実行しない場合、本製品の損失、ユーザーの重傷、機体の損傷を招くおそれがあります。

本製品を使用すると、本書の免責事項を注意深く読み、記載される条件を理解し、これを順守することに同意したとみなされます。本製品の使用中の行動とこれに伴う結果には、ユーザーが全面的に責任を負うことに同意するものとします。飛行に関する国際規制と国内規制をはじめとする適用法、規則および規制を順守して本製品を使用するとともに、DJI がこれまでに提供し、今後提供する資料の全条件、安全上の注意、慣習、方針およびガイドラインに従うことに同意するものとします。

本製品の使用により直接または間接的に発生する損害、傷害に対して、DJI は一切責任を負いません。ユーザーは、本安全ガイドラインの規定（ただしこれに限定しない）をはじめとする、安全で合法的な慣習を順守するものとします。

DJI は、SZ DJI Technology Co., Ltd.（略して「DJI」）およびその関連会社の商標です。本マニュアルに記載されている製品、ブランドなどの名称は、その所有者である各社の商標または登録商標です。

データの保管と使用法

当社のモバイルアプリ、製品、その他のソフトウェアの使用、フライトテレメトリデータ（速度、高度、バッテリー寿命、ジンバルとカメラに関する情報）と操作記録など、製品の使用と操作に関するデータを DJI が指定するサーバに自動または手動でアップロードして、保存することができます。本製品の内蔵ストレージデバイスにも、フライトテレメトリデータなどの各種データを保存できます。内蔵ストレージデバイスから手動で情報を転送して、フライトテレメトリデータなどのデータを当社サーバに保存することもできます。当社サーバに自動または手動でアップロードする情報には、個人データ（名前、住所、電子メール、または個人を特定できるその他の情報）を含めないでください。ただし、アップロードされた情報の保存時に、識別のためにユーザー名などの個人データに関連付けたり、タグ付けすることがあります。ユーザー名などの個人データの取り扱いについては、当社のプライバシーポリシーに別途記載があります（<http://www.dji.com/policy>）。本製品や当社が配布するモバイルアプリなどのソフトウェアを使用する、または当社サーバに手動でデータをアップロードすると、以下に同意したとみなされます。

- 当社ストレージにアップロードまたは提供したフライトテレメトリデータやその他のデータ（ユーザー名と組み合わせたものも含む）を当社内で保管する
- サポートやサービス提供の一環として、製品改善の目的でアップロードまたは提供されたデータ（ユーザー名を含む）を当社で利用する
- 当社代理人や請負業者にアップロードまたは提供されたデータ（ユーザー名を含む）を開示して、そのデータを当社の代理または当社との関係に関連して、利用する
- 法律の定めるところにより（公共安全、政策）、または当社事業資産の譲渡に関連して、あるいは当社の権利や財産を保護するため、データ共有が必要と誠実に判断した場合、アップロードまたは提供されたデータ（ユーザー名を含む）を開示する

使用を開始する前に

A3 や A3 Pro を安全に操作し活用いただくため、以下の資料をご用意しています。

同梱物

免責事項および安全に関するガイドライン

クイックスタートガイド

ユーザーマニュアル

「同梱物」シートに記載されているすべての品目があることを確認します。本製品を使用する前に「免責事項および安全ガイドライン」をお読みください。次に、クイックスタートガイドとユーザーマニュアルを読み、DJI 公式ウェブサイト (<http://www.dji.com>) でチュートリアルビデオをすべて視聴して、初フライトの準備をします。

フライト前に、各部の機能、フライトの必須条件、主な緊急警告機能/システム、政府所管官庁の規制をすべて十分に理解しておくようにしてください。本製品の組み立て、メンテナンス、使用で不明な点や問題がある場合は、DJI または DJI 正規販売店にお問い合わせください。

JP

各部部品

純正部品と機能部品について



警告

コンポーネントの不具合、重傷、物的損害を避けるため、以下の規則を順守してください。

1. DJI の純正部品または DJI が認定する部品のみをお使いください。非正規の部品や DJI 認定メーカー以外が製造した部品を使用すると、システムに不具合が発生し、安全性を損なうおそれがあります。
2. A3、A3 PRO システムや機体のコンポーネント内に異物（水、オイル、土、砂など）がないことを確認します。
3. A3、A3 Pro システムおよび機体のコンポーネント（リモートコントローラ、ジンバル、推進システム、バッテリーを含む）がすべて良好な動作条件にあることを確認します。これらのコンポーネントの機能をテストする方法については、本書の他のセクションを参照してください。

フライトコントローラ



警告

1. フライトコントローラの上側は上へ向いている必要があります。上下逆に取り付けしないでください。
2. DJI Assistant 2 でフライトコントローラの方向が正しく設定されていることを確認します。

注記

1. IMU Pro モジュールを機体プラットフォームと平行で、最も振動の少ない位置に取り付けます。推奨取り付け位置は機体重心付近にあります。
2. フライトコントローラは耐水性も耐油性もありません。
3. 両面粘着テープを定期的に点検して、フライトコントローラがしっかりと固定されていることを確認します。

GPS

注記

1. 屋外で飛行させてください。高いビルや鉄骨の建物は、GPS 信号をブロックし、機体に搭載されたコンパスの精度に影響を及ぼすことがあります。

コンパス

注意

重傷や物的損害を回避するため、以下の規則を順守してください。
機体がまっすぐに飛行できないなど、フライト中に激しいドリフトが発生した場合には、すぐに着陸してください。

注記

1. フライト前に、必ずコンパスを較正してください。従わないと、予期しないフライト動作や深刻な事故を引き起こすことがあります。
2. 磁性干渉が強い場所では、コンパスの較正を実施しないでください。磁性干渉の強い場所には、巨大な金属製の物体がある場所、立体駐車場、地下の鋼鉄補強材、橋下などがあります。
3. 較正時には、鍵、腕時計、携帯電話などの強磁性体を身につけないでください。
4. 屋内から屋外に移動した際には、必ずコンパスを較正してください。
5. LED モジュールが赤色に点滅した場合、コンパスの較正は失敗です。較正をやり直してください。
6. 正常に較正した後に機体を地面に置くと、コンパスに異常が発生することがあります。これは、地下の磁性干渉が原因です。機体を別の場所に移動して、再度較正してください。
7. 以下の場合に較正が必要です。
 - a. コンパスデータが異常で、LED モジュールが赤色と黄色に交互に点滅する場合。
 - b. 新しい場所で飛行する場合、あるいは前回フライトとは別の場所で飛行する場合。
 - c. 機体の機械構成が改変されている場合（コンパスの取り付け位置が変わった場合など）。
 - d. 機体がまっすぐに飛行できないなど、フライト中に激しいドリフトが発生した場合。

電源管理ユニット (PMU)

警告

1. PMU は入力電圧範囲 10.5 ~ 51 V (3 ~ 12S バッテリーに相当)、出力電圧 9 V、最大出力電流 2A です。必ずこれらの仕様に厳密に従って PMU を使用してください。
2. 推奨保管温度は -20 ~ 50 °C (-4 ~ 122 °F) です。

注記

1. 放熱とシステムパフォーマンスを最大化するために PMU をブロックしたりカバーしたりしないでください。

トリプルモジュラ冗長システム (A3 Pro 用)

IMU Pro

警告

1. IMU Pro モジュールの上側は上へ向いている必要があります。上下逆に取り付けしないでください。
2. DJI Assistant 2 で IMU Pro モジュールの方向が正しく設定されていることを確認します。

注記

1. IMU Pro モジュールを機体プラットフォームと平行で、最も振動の少ない位置に取り付けます。推奨取り付け位置は機体重心付近にあります。
2. IMU Pro モジュールは耐水性も耐油性もありません。
3. 両面粘着テープを定期的に点検して、フライトコントローラがしっかりと固定されていることを確認します。

JP

GPS-Compass Pro

注記

1. アップグレードキットに含まれる GPS-Compass Pro モジュールは、A3 フライトコントロールシステム内のものと同じです。

ファームウェア

警告

子供や動物が重傷を負わないよう、以下の規則を順守してください。
ファームウェアのアップグレード、システム較正、パラメータ設定の作業中中は、安全確保のため、子供や動物を近づけないでください。

注記

1. 安全上の理由から、ファームウェア更新通知が表示されたら必ずファームウェアを更新してください。
2. ファームウェア更新を実行する前に、接続をすべてチェックし、モーターからプロペラを取り外してください。

アプリ (DJI Lightbridge 2 が必要)

注記

1. アプリを起動する前に、タブレットやモバイル機器を完全に充電しておきます。最良のユーザーエクスペリエンスのために、タブレットのご使用をお勧めします。
2. 携帯電話をモバイル機器ディスプレイとして使用している場合は、電話に着信があっても安全に飛行を続けられるようにしてください。フライト中には、通話着信を受けないでください。
3. 画面に表示される安全性に関するヒント、警告メッセージ、および免責事項をよくお読みください。お使いの地域の関連規制を頭に入れておいてください。ユーザーには、関連規制をすべて認識のうえ、これを順守して飛行する責任があります。

- a. 自動離陸と自動着陸機能を使用する前に、警告メッセージを読んで理解しておいてください。
 - b. 規制による上限よりも高い高度に設定する前に、警告メッセージと免責事項を読んで理解しておいてください。
 - c. フライトモードを切り替える前に、警告メッセージと免責事項を読んで理解しておいてください。
4. アプリにアラートが表示された場合には、機体をただちに着陸させてください。
 5. フライト前に、アプリに表示されるチェックリストで必ず警告メッセージをすべて確認してください。
 6. これまでに機体の操作をしたことがない場合、または機体を快適に操作するのに十分な経験がない場合には、アプリのシミュレータを使って、フライトスキルを向上させてください。
 7. アプリをはじめて起動する際には、ビギナーモードがデフォルトで有効になっています。ビギナーモードで飛行する場合、機体の高度とフライト距離に制限があります。フライトスキルに精通できるよう、ビギナーモードで飛行することを推奨します。十分なフライトスキルを習得したと自信を持っている状態になってから、実際の機体を操作してください。
 8. フライト前にインターネットに接続して、必ず飛行地域の地図データをキャッシュしてください。

本製品の手入れ

保管と輸送



警告

子供や動物が重傷を負わないよう、以下の規則を順守してください。
ケーブルやストラップなどの小さい部品を飲み込むと危険です。部品はすべて、子供や動物の手の届かない場所に保管してください。

注記

1. 推奨保管温度は 5 ~ 35 °C (41 ~ 95 °F) です。
2. 推奨保存条件：付近に熱源がないこと。振動、強力な電磁場がないこと。
3. フライトコントロールシステムを水などの液体に接触させたり、浸したりしないでください。カメラが濡れた場合には、柔らかく吸水性の高い布で乾拭きします。水に落ちたフライトコントロールシステムの電源をオンにすると、コンポーネントに回復不能な損傷が発生するおそれがあります。アルコール、ベンゼン、シンナーなどの可燃性物質を含有するものをフライトコントロールシステムのクリーニングや保守に使用しないでください。湿気や埃の多い場所にフライトコントロールシステムを保管しないでください。

メンテナンスと保管

注記

1. 墜落や激しい衝撃を受けた後には、機体の各部を確認してください。問題や不明な点がある場合、DJI 正規販売店にご連絡ください。

フライトの必須条件

気象条件と周辺環境

警告

フライトコントロールシステムは、穏やかな気象条件で正常に動作するように設計されています。墜落、重傷、物的損害を回避するため、以下の規則を順守してください。

1. 雨、雪、霧、強風などの悪天候時にフライトコントロールシステムを使用しないでください。
2. フライト時には、機体およびフライトコントロールシステムを障害物、人、動物、建造物、公共インフラ、樹木、水域から 10 m (30 フィート) 以上離してください。高度が上昇するに従って、障害物の上部からさらに離れます。
3. 機体およびフライトコントロールシステムを屋内で操作するときは特に注意してください。

注記

1. 機体やバッテリーの性能は、空気密度や気温などの環境要因に左右されます。
 - a. A3 および A3 Pro システムは、海拔 10,000 m (32,808 フィート) までの高度に対応しています。ただし、バッテリーおよびエアフレームのパフォーマンスは、エアリアルプラットフォームの航行可能限界高度によって制限されます。高い高度では、特に注意して飛行させる必要があります。
 - b. 直射日光を避け、 $-10 \sim 45^{\circ}\text{C}$ ($14 \sim 113^{\circ}\text{F}$) の気温で飛行させることをお勧めします。
2. 事故、火災、爆発、洪水、津波、雪崩、地滑り、地震、粉塵、砂嵐の環境下では、機体を使用しないでください。

フライトコントロールシステムの責任を持った使用

警告

重傷や物的損害を回避するため、以下の規則を順守してください。

1. 飲酒、服薬、麻酔などの影響はないか、めまい、疲労、吐き気などの症状がないか、あるいは身体的、精神的に、機体を安全に操作する能力が損なわれていないかを確認します。
2. 機体が空中にある間、コンビネーションスティックコマンドを実行しないでください。万が一実行してしまうと、機体が墜落します。
3. 着陸後は、必ずリモートコントローラよりも先に機体の電源をオフにしてください。
4. 機体を落下、打ち上げ、発射したり、危険な積荷を積載したり、建物、人、動物に向けて操作したり、その他の人的傷害や物的損害が生じたりするおそれがあることをしないでください。

注記

1. 十分なトレーニングを受けており、事故が発生する以前に、緊急時対応策をすべて認識しているか確認します。
2. 飛行計画が策定されており、無謀な飛行ではないか確認します。
3. 一般的な個人使用以外の理由で本製品を使用しないでください。違法な目的や不適切な目的（スパイ行為、軍事作戦、不正捜査など）に使用しないでください。
4. 本製品を中傷、虐待、嫌がらせ、ストーキング行為、脅迫など、他人の法的権利（プライバシー権やプライバシー権など）を侵害する行為に使用しないでください。
5. 他人の私有地に侵入しないでください。

フライトモード、機能と警告

フライトモード

警告

重傷や物的損害を回避するため、以下の規則を順守してください。

各フライトモードでの機体の挙動を十分に習得していないかぎり、PモードからAttiモードまたはFモードに切り替えしないでください。これにより、GPSが無効化され、機体を安全に着陸できないおそれがあります。

注記

ほとんどの飛行シナリオには、Pモードが適しています。Pモードが利用できない場所やタイミングでは、Attiモードに切り替えることができます。Attiモードでは一部使用できない機能があることを認識しておいてください。Attiモードでの飛行時は特に注意してください。

1. Pモード（位置決め）：GPS信号が強い場合はPモードの作動がベストです。Pモードには3種類の状態があります。これらの状態は、フライトコントロールシステムがGPS信号強度とビジョンポジショニングセンサーに応じて自動的に選択します。
 - a. P-GPS：GPSとビジョンポジショニングの両方が使用でき、機体はポジショニングにGPSを使用しています。
 - b. P-OPTI*：GPSが使用できない場合、機体は正確にホバリングするためにビジョンポジショニングシステムを使用します。
 - c. P-ATTI：GPSもビジョンポジショニングも使用できないとき、機体はポジショニングにその機体の気圧計のみを使用しています。このため、高度のみが制御されます。
2. Attiモード（姿勢）：ポジショニングにGPSもビジョンポジショニングシステムも使用されていません。機体は高度を維持するのに気圧計のみを使用します。それでもなおGPS信号を受信している場合は、リモートコントローラ信号が途絶え、ホームポイントが正常に記録されている場合、機体は自動的にホームに戻ることができます。
3. Fモード（機能）：このモードでは、インテリジェントフライトが作動しています。使用前にインテリジェントフライトの機能に習熟してください。
4. 手動モード：緊急時にのみ使用してください。

* P-OPTIにはDJIビジョンポジショニングシステム（DJIガイダンスなど）が必要です。機体が水上、はっきりした模様のない地表上、または光量の低い環境内を飛行しているときは、ビジョンポジショニングシステムが適切に機能しないことがあるので注意してください。

GPS支援（Attiモードなど）が無効なモードに切り替えようとするとき、この機能を有効にするよう免責条項が表示され、これに同意する必要があります。この機能が有効になっている場合、フライトテレメトリや機能レコードなどのデータ（ただし、これに限定されない）をDJIが指定するサーバにアップロードして、保存できることを理解して、これに同意するものとします。

フェイルセーフとリターントゥホーム

注記

1. GPS信号が不十分な場合、またはGPSが有効ではない場合、リターントゥホーム機能は機能しません。
2. リモートコントローラをオフにする代わりにスマートRTHを有効にして、機体をホームポイントに戻します。

3. 高層ビルは、フェイルセーフ機能に悪影響を及ぼすことがあります。ホームに戻るまでに障害物を避けられるよう、機体の位置、高度および速度を調整してください。
4. 機体は常にリモートコントローラの伝送域内で飛行させてください。
5. フェイルセーフおよびリターントゥホーム機能は天候、環境、周辺の磁場の影響を受けることがあるため、緊急時のみ使用してください。
6. 機体はフェイルセーフ RTH 中に障害物を避けることができないため、各フライト前に適切なフェイルセーフ高度を設定することが重要です。

低バッテリー警告

注記

1. 重大なバッテリーレベル警告（または重大な低電圧警告）が起動して機体が自動的に降下するとき、スロットルを押し上げて機体の高度を維持して、より適切な着陸地点へ機体を誘導することができます。
2. バッテリー（または電圧）に関する警告が発信された場合には、機体をホームポイントに速やかに戻すか、着陸させてください。そうしないと、フライト中に電池切れになり、機体の損傷、物的損害、動物や人への傷害が発生するおそれがあります。

規制順守と飛行不可ゾーン

規制

警告

法令不履行、重傷、物的損害を避けるため、以下の規則を順守してください。

1. 高度に関係なく、有人の航空機周辺で操作しないでください。（必要であれば、速やかに着陸してください）
2. 都市部、スポーツイベント、展示会、公演など、多くの人が集まる地域では飛行させないでください。
3. 認可を受けた高度を超えて飛行させないでください。有人の航空機の航路から十分な距離を保ち、運行を妨げないでください。常に他の航空機や障害物に注意して、回避してください。

注意

法令不履行、重傷、物的損害を避けるため、以下の規則を順守してください。

1. 現地法および規制で指定された飛行不可ゾーンの周辺やゾーン内を飛行させないでください。飛行不可ゾーンの一覧は、空港、2つの主権国または地域の国境、大都市／地域間の境界などが記載されており、常に更新されています。
2. 認可を受けた高度を超えて飛行させないでください。
3. 常に機体を視界内に捉え、必要であれば、立会者に支援を要請します。
4. 違法または危険な物品／貨物の運搬に機体を使用しないでください。

注記

1. 実施するフライトの特質／タイプ（レクリエーション、公共利用、商業的使用など）を理解して、フライト前に関係所管庁から飛行に関連する承認と認可を受けているか確認します。包括的な定義と個別の要件については、現地の規制当局にお問い合わせください。米国で機体を操作する場合、まず <http://www.knowbeforeyoufly.org/> にアクセスして、状況に適切な措置を講じてください。

2. 特定の国と地域では、リモート制御の航空機を使った商業活動を禁止している場合がありますので、ご注意ください。実際の規則が本書の記載と異なることがあるため、フライト前に現地の法規制や条例をすべて確認し、これに従ってください。
3. 発電所、水処理施設、矯正施設、交通量の多い道路、政府施設、軍事用ゾーンなど、慎重な対処が求められる基幹施設や敷地周辺を飛行しないでください。
4. カメラの使用時には、他者のプライバシーを尊重してください。いかなる人物、団体、イベント、パフォーマンス、展示会、敷地においても、認可を受けないかぎり画像撮影やビデオ録画などの調査を実施しないでください。個人的目的で画像やビデオを撮影する場合でも、プライバシーに関わる場合には、同様の配慮が必要です。
5. 特定の地域では、イベント、パフォーマンス、展示会、商用の不動産物件の画像またはビデオをカメラで記録する場合に、たとえ個人使用の目的であっても、著作権またはその他の法的権利を侵害することがありますのでご注意ください。

飛行不可ゾーン

注記

DJI は常にフライト中の安全を重視しており、ユーザーが現地規則と規制を順守して飛行できるよう、さまざまな補助ツールを開発しています。当社は、ファームウェアを最新バージョンに更新して、以下の機能がすべて更新されているか確認するよう、強く推奨します。

飛行不可ゾーン

1. 飛行不可ゾーンには、世界各地の主要な空港、2つの主権国または地域間の国境、主要都市／地域間の境界線などがありますが、これに限定されません。
2. 飛行不可ゾーンの一覧は、DJI 公式ウェブサイト (<http://fllysafe.dji.com/no-fly>) に掲載されていますが、最新の規制要件に準じて、事前の予告なく定期的に更新されます。
3. 一部の飛行不可ゾーンは、複数のゾーンで構成されています。各ゾーンは、さまざまな大きさの円で示されます。機体は飛行不可ゾーンの最も内側のゾーンでは離陸が禁止されており、最も内側のゾーンの境界部に向かうほど、指定高度まで降下します。飛行不可ゾーン内では、グランドステーション機能が無効になります。
4. 飛行不可ゾーン内では、ウェイポイントを設定できません。

高度制限

1. 地面より 120 m (400 フィート) ほどの高度を飛行させて、周辺の障害物からの距離を保つことをお勧めします。
2. デフォルトの高度制限を超えて飛行しようとすると、新しい高度制限を有効にするよう免責条項が表示され、これに同意する必要があります。新しい高度制限が設定された際には、フライトテレメトリデータ、高度制限変更などのデータが DJI が指定するサーバーにアップロードされ、保存されることを理解し、これに同意するものとします。

DJI サポートのウェブサイト

<http://www.dji.com/support>

本内容は変更されることがあります。最新版は下記よりダウンロードしてください。

<http://www.dji.com/product/a3>

Copyright © 2016 DJI All Rights Reserved.

If you have any questions about this document, please contact DJI by sending a message to DocSupport@dji.com.

Printed in China.